

令和3年度
学校だより
9月号

かごまち



令和3年9月6日
文京区立駕籠町小学校
校長 矢部 明美

想像力を働かせるということ ～目に見えないものを見ようとする～

校長 矢部 明美

本日より2学期が始まりました。夏季休業中も子供たちの健康管理にご配慮いただきありがとうございました。まだ予断の許さない状況が続いておりますが、学校においてはこれまでの感染症対策を念入りに行い、感染症拡大防止に努めてまいります。目に見えないウイルスに対し、誰もが不安を感じていることと思います。しかし、目に見えないものを見えないものとしてむやみに恐れるのではなく、よく理解し、正しく対応していくことが求められます。アインシュタインの言葉に、以下のような言葉があります。

『想像力がすべてだ。それは人生でこれから起こることの予告編である』
『想像力は知識より大切だ。知識には限界がある。想像力は、世界を包み込む』

感染症の現状になぞらえるならば、正しく理解し、共生していくためには私たち一人一人が「想像力を働かせる」ことが大切であり、翻ってこのことは子供たちの学びの根幹ともいえると思います。

「学び」が「学び」として成立する要件が教材を含む様々な「出会い」とそれに伴って生じる「対話」であるならば、「対話」において、「他者はどう感じるのだろう」「この時はどうなるのだろう」等、目に見えてはこないけれど「あるのではないか」「こう感じているのではないか」と、見えている事実だけで判断するのではなく、自らの想像力を働かせながら、自分自身が意識して何らかの行動をする、ということが大切であると思います。この世に「考えや価値観が全く同じ」という人はいません。学校はその集合体であり、互いに自分から相手に思いや考えを馳せながらかわる、そこにこそ学校で学ぶ意味があります。

マスクを外し、友達と、互いの表情を十分に見合いながらやり取りする活動ができるようになるのは、まだ少し先のことでしょう。場合によっては離れた場所で、ICT機器の画面を通して学習する、ということもあるでしょう。このような時、限られた状況から、直接会って話す時以上に他者に心を寄せ、相手の考えに心の触手を伸ばすことで、これまで経験してきた以上のことに気付いたり視野が広がったりします。今の状況だからこそ、表層には表れてこない相手の気持ちや前提を想像する力を育てながら、2学期の学びを進めてまいります。

9月の行事予定 出席17日			詳しい時程については、学年だよりをご参照ください。 ☑…安全指導		
日	曜	行 事	日	曜	行 事
1	水		16	木	歯科(全)9:00-
2	木		17	金	クラブ4
3	金		18	土	
4	土		19	日	
5	日		20	月	敬老の日
6	月	始業式 給食始	21	火	全校朝会 金曜時程 発育測定(3・4年)
7	火	☑	22	水	4時間授業(1・2年) 発育測定(5・6年)
8	水	4時間授業	23	木	秋分の日
9	木	学びの教室始 視力(3、4年)	24	金	4時間授業(1・2年) 発育測定(1・2年)
10	金	視力(1・5年) 避難訓練 委員会(卒アル写真予定)	25	土	
11	土		26	日	
12	日		27	月	全校朝会
13	月	全校朝会 視力(6年) 巡回相談(2年)	28	火	
14	火	視力(2・5年)	29	水	
15	水	4時間授業(5-1、6-1は研究授業のため5時間)	30	木	

* 9月より揚石ちさと栄養士が産休・育休に入ります。代替として菊池有利子栄養士が着任しました。

『学びを紡いでいく児童の育成』を目指して

研究主任 金田 美奈子

駕籠町小学校では、学校教育目標及び学校長の学校経営方針を踏まえて、児童に確かな学力を育成するために以下のような授業実践を積み重ね、児童がより深い学びに向かうことができるよう、絶え間ない授業改善を行っています。

- 1 確実な見取りの積み重ねと評価（ねらいを明確にした授業実践と、学びの過程における児童の変容の記録）
- 2 問題解決に向かう学級づくり
（児童が自ら課題を設定し、解決する意味や価値を見出すことができる学びの場づくり）
- 3 指導形態の工夫（目的を明確にした交流の場の設定と、交流の場における学びの成果と課題の把握）
- 4 個の学びと集団の学びのバランス
（年間のカリキュラムを見通した個別最適な学び・協働的な学びと授業改善）
- 5 「分からない」をそのままにしない

（学習の進め方を自ら調整していくことができるような、発達の段階に配慮をした指導・助言）

今年度より令和3・4年度文京区研究協力校の指定を受け、「学びを紡いでいく児童の育成」を研究主題として、研究を進めていくこととなりました。研究主題にある「学びを紡ぐ」とは、「既習の知識や技能と新しく学んでいることとを結び付け、教師の支援や友達からのアドバイス、課題解決に適した資料等を活用しながら、自分に合った学び方で学びを深めること」と現段階では捉えています。

2学期より、体育科・国語科・生活科・社会科・音楽科の研究授業における児童の学びのストーリーを参観者一人一人が自分の視点で見取り、児童の学びの深まりや教師の指導・助言の在り方について、議論を深めてまいります。

研究授業で先生も学びます！

研究部 西川 義浩

これからの時代に必要な力を子供にどのように育てていくか、教師も日々の研鑽が必要とされています。

校内研究会では、授業中の子供の具体的な姿を記録し、その時間にどんな力が付いたのかを検証していきます。今年は、子供の学びをどのように見取るか、教師として必要な確かな評価の目を磨き上げていくことも研究の大きな目的としています。

6月に行った4年2組の社会科の授業では、1時間を通して災害に対する課題意識が明確になっていく子供の姿が見られました。協議会での講師の先生からの指導や助言を踏まえ、自分は何を学んだのか、自分の授業に生かせることはないかコメントカードに書いて共有するようにしています。子供の授業同様に、個々の学びを共有して

広げるようにしています。

2学期以降、全ての学級で研究授業を行います。豊かな学びの1年になりそうです。

